

〇21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長より登壇の許可をいただきました。一般質問を開始いたします。

先ほど末藤議員が、見事な質問で、1番バッター、塁に出られました。私はチームプレーに徹して、送りバントで進めたいと思います。次に続く上田議員がまた塁に出て、最後の4番打者、朝長議員がホームランで塁に、走者一掃という運びが——（発言する者あり）きょうの質問の流れになると思いますので、よろしくお願ひします。質問を続けます。

きょうの質問項目は4つ。1番、市民負担減について。2番、道路行政について。3番、まちづくりについて。4番、教育について。項目分けてますけども、例えば市民負担軽減はまちづくりも関係しますし、教育にも関係してきます。いろんな部分が重複はするかもしれませんが、よろしくお願ひいたします。

まず1つ目、市民負担の軽減であります。

ちょっと余談にはなりますけども、きのう田代酒造跡の話が出ました。壇上で、私の発言の部分を言われましたけども、当時ですね、市長が答弁で——当時というか、樋渡市長の答弁で、本当にもったいなかったと、そういうことを大分おっしゃいました。

確かにですね、当時反対しました。なんであそこを買わなきゃいけないのかと。市民負担の増になるんじゃないかと。そういう話をしてまして、あれは長崎街道沿いだからと。じゃあ、長崎街道沿いの古か建物を全部買うとですかと。いや、違う。あそこは歴史的価値があると。どがん価値のあるとですかと。そこで、百武酒造さんの話を出して、向こうのほうがもっと古いですよ。うちの話は一切出しておりません。

ちょうど、思い起こせばですね、当時の谷口議員さんが、買うときに、いや歴史的価値はあるんだよと。牛をつなぐ鼻輪ですかね、鼻輪がこれはすごい珍しいと。当時の街道沿いで来る牛とか馬をつなぐ鼻輪は珍しい。これだけでもすごいよっておっしゃいましたけども、百武酒造さんも、うちにもついていますと。そういう話をしながら反対しました。

きのうは、答弁では出てきませんでしたけども、その後の維持費のことが出てきましたけども、その後もあそこをどうするかというコンサル代ですね。コンサル代が大分出ましたよね。当時覚えてらっしゃる職員さんいらっしゃいますかね。あそこをどうするかって、コンサル代で、いま、さっき話題の……

井上さんですか。まち研のほうに、100万？結構な金額がいったと思います。そういうのはちょっと、きのう出てきませんでしたけども。

きょうはですね、市民負担の軽減、いろんな部分の市民負担の軽減ですけども、やってきたいと思っております。（発言する者あり）

樋渡市政になって、合併後樋渡市政になって、いろんな負担が減じられました。先ほど14番議員、末藤議員の答弁の答えの中でも出ましたけども、職員さんの減をし、そして借金を100億円減らしたと。そういう話も出ました。

直接、市民負担の部分で水道料。水道料はもう旧武雄市、昔から高い、高いって言われて、市民負担をなんとか減じてくれということと言われて、やっと実現し、旧料金、20立米ですけども、5,953円が4,830円。1,000円以上、下がった。これ月額ですね。そういうふうにより市民負担が軽減されてきました。平均13.1%の市民負担が軽減されました。

次です。固定資産税。固定資産税も1.55%から1.48%。これ本当に市民負担の軽減となります。

武雄市はですね、知名度、物すごく上がりました。本当に上がりました。私のところでも連絡が来て、視察に行きたいんだけど、図書館に行きたいんだけど。議員、友人、いろんな方が武雄市のことを知っておられました。

その中で市民。市民に対してはどうかというときに、やっぱりこういうふうな市民負担の軽減というのが必要になってくると思います。そういう中で、今2つ紹介しました。

これはですね、エリアトークとあって、旧オフトークから新しく変わった、小さいとこですけども、エリアトークです。昔のオフトーク時代は、月500円の負担がありました。こうやって樋渡市政が変わって、いろんな補助を受け、エリアトークに変わり、その500円がゼロになりました。月500円ですけども、年間6,000円の市民負担、町民負担が減になったと。いろんな部分で減になるというのは、やっぱり市民の生活向上、福祉向上、いろんな部分で大切な部分だと思っております。

今回の質問であります。今回の質問の部分のところでですけども、インターネット。インターネットというのは、もう、物すごく加入世帯が増えてきております。加入世帯が物すごく増えてきております。

そういう中で、例えば、個人負担、先ほど言いました税の部分、軽減されたもの多いです。そして、例えば、ガソリン代とか電話代とかなんとか、電気代もそうですね、なかなか、市としてできない部分があると。

しかし、例えば、インターネットに接続する部分。これから物すごく増えてくるだろうというインターネット接続。新庁舎もそういうふうな、いろんな意味での——何というんですか。IT化も進んでいると。そういうふうな、物すごくこう、インターネットというのは、生活の一つの、年間払わなきゃいけない負担の部分だと思うんですけども、こういうふうなインターネット代に関しても、行政は目を向けていっていいんじゃないかと思っておりますけども、これを最初の質問にしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私ですね、今までケーブルテレビを使っていたんです。この160のやつを使っている。何かね、プツプツ切れるんですよ。これは事実ですから。変えました、フレッツ光。爆速です。

ですので、多分ね、これ私の見解なんですけれども、しかもね、フレッツ光のほうが安い、これ出てますけど安いんですよ。圧倒的に安いので、僕は、人様におすすめることはしませんけれども、少なくとも自分が体感したものについてね、これはもう、行政には反映していこうと思いますよ。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

インターネットというのは、先ほど市長が言われました、プツプツ切れる。早いにこしたことはないんですね。早い。

やっぱりこれからですね、情報も画像、動画、いろんな部分で来るんで、早いにこしたことはないんですけど、例えば、今言われたフレッツ。この1ギガビット。1ギガビットと言います。ケーブルテレビは160メガビット。つまり、1ギガビットの6分の1。6分の1の速度しか、6分の1ですね、速さが。6分の1なのに、この値段。

ADSL。ADSLは、これはNTTさんですけども、47メガビット、3,111円。ケーブルテレビさんは30メガビット、47よりも低くて5,229円。大きく違ってきます。例えば、このADSLでも同じ8——これ、契約でこれ違うんですね。1ギガビットを契約したらこの値段。47メガビットで、これはギガビットですね。47メガビットで3,000円。同じやつがありました。8メガビットでADSLが2,958円。ケーブルテレビは8メガビットで4,704円。どうですかね、皆さん方の感想は。こういうふうにですね、大きな差がある。

大きな差があるけども、これ地域間の格差があるんですね。地域間の格差。これ次のページ。市内のインターネットの加入の合わせた数です。1万7,000世帯の中で、もうインターネットに7,500。これはですね、爆速で増えていきます。爆速で。インターネット加入というのは増えてきてます。

今度、反転授業が行われますよね。教育改革で。そういう中でタブレットを使った小学生、中学生は、必ず申し込みます。その子が大人になったとき、これと同数か、ひょっとすると、これ機種によって違います、もっと増えてるかもしれないというぐらいなので、今のうちに整備しないといけないというのが、今回の質問の主旨であります。

物すごく多いですね、インターネット加入率。例えば、若木町はですね、50%ですよ。ぶっちぎりで、それだけインテリジェンスってことですかね。ちょっと違いますけども。こういうふうに、インターネットというのは物すごく加入。

ただ、何で、さっき速度のことを言ったかということ、やっぱりですね、速度と容量が大きくないと、1つは企業誘致ができないんですよ。

〔市長「そうそう」〕

企業誘致ができない。企業は、例えば大きな会社、例えば、北方のインター、若木に来たと

き、いろんなどころしたとき、いろんなどこにこう進出しようとしたときに、やっぱりこれがないとですね。

そして、教育に関しても、いろんな事業を、昔で言う双方ですね。シリコンバレーなんて世界最高の水準を誇ってますね。「そうです」と呼ぶ者あり）それを目指すならば、やっぱりですね、こういうふうなインターネットの情報インフラの基礎をしなきゃいけないと思って、この質問しております。

次、市内で利用可能な通信サービスの比較です。例えば、ケーブルテレビさん。武雄、これはですね、普及率が九十数%、ケーブルテレビの普及率が九十数%いってますんで、全部、全町利用可能です。

NTTさん、フレッツ光。武雄町、橘町、朝日町はフレッツ、さっきの1ギガ、1ギガビットが使えます。若木町、武内町使えません。東川登町、これは丸ついてますけど一部です。朝日町も一部です。武雄町も大体のところはカバーしてますけども、全部ではありません。あと、ここら辺は来ておりません。

次、ADSL。ADSLは武内だけ来てないんですね。武内だけ来てない。ISDNは全部、これは電話ですから。

これはどういうことかということ、さっき言った武内町。武内町でも、来てないけど43%。物すごく加入多いですよ。来てないけど、多いですね。

何でかということ、これ、もう一度言います。これは、NTTさん単独での申し込みの分です。さすがに武雄町、朝日町多いですね。フレッツ光、1ギガビット。物すごく環境的にいいです。さっき言った武内町。武内町はゼロです。武内町ゼロ。若木町も85で、さっき言った、50%越えているのに、85と少ないです。東川登町も少くないけど、何で、インターネット加入率は高いのに、こっちのほうはゼロなのか。

次はケーブルテレビ。ケーブルテレビ、さっき言いました。朝日町、武雄町はフレッツが来てるので、少ないですよ、加入率が。フレッツが来てるんで少ない。ところが、武内町。武内町はADSLしかないんで、もう選択肢がないんですよ。こっちに入るしか。選択肢がないということは、独壇場であり、寡占状態になります。ですから武内町は43%。圧倒的にケーブルテレビを頼らざるを得ない。頼らざるを得ないときに、どういうことかということ、これをちょっと戻します。

頼らざるを得ないときにどういうことかということ、これを払わなきゃいけないようになってるんですね。払わなきゃいけない。周辺部はそうです。そういうふうになってます。ですから、これを見ても、周辺部とか、例えば武雄町にしても一部はつないでない、来てないから、こういうふうな形に。これは光化のエリアです。エリア。

すいません。ちょっとあのね、スキャンしたんですけれども、写りが悪くて、光の濟みというのは武雄町、ここ駅のところですね。こういうふうに武雄町がなっています。武雄町は、

光済みです。ただこの辺、上西山ですかね、あとさっき言った西谷峠のほうはまだですね。この辺も、川良とか朝日町の一部はまだです。今検討中のところで、北方町が高速通信のほうに入ってきてます。さらにこれが済めば、できれば全市に広げていただきたいと思います。

全市に広がればどういうことかという、市内、くまなく1ギガビットの通信網があるし、例えば企業が、インターネット、IT関連の企業が武内に住みたいと、武内の空き家を借りてやりたい。そういうときには来たらすぐできるんですよ。

これは、何でかという、前例があって、徳島県の神山町というところは、全町に広げました。全町の、町の真ん中は家賃が高いんで、周辺部の空き家を借りてインターネットのいろんなソフトをつくったり、いろんなサービスをしたりとか、とんとんできて、田舎にどんどん住みよった。反対に、この田舎にこの住んだ、そういう人たちがランチを頼むんですね。地元のランチを。それが、ランチが美味しいということで有名になって、またぼつぼつできた。これは、一重にも、二重にも、全市的な高速通信網をつくったからであります。

ちょっと話がここで長くなって、申しわけないんですけども。これから、さっき反転授業の話をしたときに、武内町が、今、武内小学校が反転授業を、今中心、へそになっております。そういう中で、一番、逆に言えば、インフラが整っていないということになります。若木町もそうであります。武内でやると、若木もですね、北中で一緒になりますので、同じように扱わなきゃいけないので、一緒にやっばそういうふうにして、反転授業の成果がここで出るときに、情報インフラ整備が全くできずに、寡占状態のほうの高いところにしないといけない。子どもがしたいよと、でも高かもしれんよとかなるかもしれませぬ。そういうことで、じゃあどういふふうに、それ、お金がかかります。NTTさんは、何でやらなかったのか、今まで。NTT単独では、予算が取れないから、収支が、設備に合わないからであります。そういう中で、どういふふうな、今補助メニューがあるかっていうのを、いろいろ調べてきました。防災情報通信基盤整備、これ1個1個読んでいくと長くなるんで、こういうふうな、これ全部総務省です。総務省の最大2分の1補助です。例えば1億かかれば、5,000万。まあ3分の1もあります。そういうふうな補助を使って、例えば、どこどこまで引くの、2,000万かかったら、もちろんNTTさんも負担されますから、そのうちのまた何分の1かの負担で市はよくなると。こういうふうなのが、総務省から出ております。

ですから市単独、単費じゃなくて、やっぱりこういうのをやって、周辺部まで、周辺というか、できればもちろん町の中最初ですけども、できないかというのと、やっぱりこう、ずっとですね、交付金ずっと調べていったんですけども、やっぱり一番よかったのがですね、合併特例債。特例債は新市建設計画の中に、計画を入れればできるんですね。そして、新市建設計画をずっと読みました。読んでいた中にこういう文章があって、「公営住宅などの整備、そして情報基盤の整備」という言葉を、文言がきちんと入っております。そして、その中の枠一覧の中に、「情報通信基盤整備事業を確立します」という言葉も、新市建設計画の中には

入っております。これだと、合併特例債のほうが使え、市の負担も4割になるんですかね。合併特例債。3割か4割になる。

さらに、NTTさんが、そのうち半分は負担されますんで、半分以上は負担されますんで、こういう事業を使って、できるだけ市民負担の——まあ、こっちのほうになりますけども、例えば、高い毎月の、さっきの一番最初のやつは月料金ですから。月料金を負担せずに、すばらしいサービスを受けて、そしたらですね、ひょっとするとケーブル会社さんも、競争で、よりよいサービスをつくってくれるかもしれない。そういうふうなことが考えられないか。先ほど、この質問で反転授業の言葉出しましたけども、各小学校は、そういうふうなタブレットがいきますんで、情報網の中心になって、そこから活力が出ます。そこまでも、そこに、引っ張るだけ。各学校を拠点に引っ張るだけでも、だいぶ違ってくるし、そこから例えば、若木小学校、武内小学校、東川登小学校、そこら辺まで線引いて、超高速Wi-Fiとかですね、そういうのをしとけば、そっからまた広がっていくんじゃないか。こういうふうな事業を使って。ですから最終的には、月々七千円も八千円も払って、高いの、遅いというのではなく、負担をさせないために、やっぱりですね、こういうふうな電子的な情報インフラの整備。

そしてこれはですね、1つは、これさっきパスしました。これはですね、さっきの神山町全町、高速インフラした人が言いましたと。過疎化がますます進む懸念があったんですけども、やっぱり若者達に魅力が薄れると。児童と生徒の授業内容にも差が出たりするかもしれない。都会に住んでいる人と。ですから、こういうふうなことでやった、ということ言われています。

ですから、さっき壇上で言いました、まちづくりにもちょっとリンクしますよ、ということなんですけども、できればこういうふうな、通信基盤整備をやっていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

行政が積極的に関与していこうと思います。

やはりですね、今まで例えば道路が、今までの旧来型の社会的インフラだったと思うんですけど、今、この時代については、インターネットの通信網が、新たな社会的にインフラだと思っていますし、それによって、医療、教育、さまざまなエンターテインメントも含めそうなんですけれども、これなくしても、町の魅力というのは、イコールにならないんですよ。それで、1つこういうことがあるんですよ。今ちょっと考えているのは、今度小学生にタブレットを配付をします。4月以降ね。タブレットを配付するときに、例えば、これ持ち帰りになるじゃないですか。そうすると、そこのエリアでWi-Fi環境が整っていれば、

例えばですよ、私のiPhone、何度か迷子になったことがあります。迷子になって、置き忘れて。でも、このパソコンで、どこにあるかわかるんですよ。

私のiPhoneは、長崎駅まで行きました。置き忘れてたんですよ。佐世保駅か、ごめんなさい、佐世保駅まで行っちゃったんですよ。それを取りに行ったということもあるんですよ。

何を言いたいかというと、これね、安全・安心の1つの切り札になるんですよ。だから子どもたちが通学路から外れてるといったときに、もうそこで、わかるわけですよ。

だけど、今のままだと若木町も武内町も、それできないんですよ。

[21番「はい」]

ですので、安全・安心の切り札としても、これはぜひやりたいと思っていて、もう1つですね、今、これ全部光をね、やるってなったら、物すごい値段かかるんですよ。1つ考えられるのは、例えば若木町だったら、若木町の小学校と公民館のところまで、光を、例えばつなげると。そこから、無線で飛ばすっていうのもあるんですよ。

今、規格が物すごいのができてきて、11acっていうのが出てきたんですよ、ついに。これは今までね、有線と無線の場合は、無線のほうが遅いっていうような感じだったんですけど、今、ほとんどもう一緒なんですよ。11acは。これ、我が家でもそれやっています。そうすると、有線の場合と無線の場合とほとんど一緒なんですよ。もう11acになると。恐らくね、ここ数年になると、多分もう無線のほうが追い越す可能性があるんですよ。

ですが、拠点が近くにないと、話にならないわけですよ。だから、この整備については、もう実際、NTTに、開発を進めるようになっていうふうに、私からお願いをしています。

お願いをしていますので、こういった牟田議員から御指摘のあった、国の補助金等を活用しながらね、これはぜひやっていきたいと思います。これによって、またね、劇的に町の形が変わっていくと思っています。単にその、早いからなんとかかっていっても、多分住民の皆さんたち、あんまわかんないと思うんですよ。だけど、こんなによくなりますと。

それとね、もう1つ、僕が今一番びっくりしているのは、医療です。医療で本当に早い回線だともうあれですもんね。例えば、レントゲンとかなんとかっていうのを、もう見なくていいんですよ。もうiPadでもう見ればわかるとか、動画でわかるとかっていうふうになってるんで、もう遠くの大病院に行かなくてもいいわけですよ。

あるいは、健康のチェックとかっていうのも、自宅にいながらして、その高速のインターネット環境を使えばそれができるといふふうになってますので、大きくそちらのほうに行政的には舵を切っていこうと思っていますので、具体的には、今度の私どもの公約で、これ与党会派とも十分に詰めたいと思っていますけれども、今度の公約でしっかり出していきたいと。それで、市民の皆さんに実際に選んでもらおうと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、やっぱり基盤整備があったところはですね、全然違うっていうふうな形で。これなんですね、やっぱり。市民負担の軽減をしたと同時に、この1ギガビットという数字は、物すごく大きい意味があると思います。

先ほど、私ちょっと答えで用意してたんですけども、医療の話されてて、これも私ちょっと用意していたんですけども、医療が、これが進めばですね、どんな僻地、僻地っちゅう言葉いかなですね。もうそれでですね、見てすぐその病院と提携、例えば新武雄病院と連携して、バツと、もうすぐできるんですね。

そしてもう1つは、救急隊員、救急車。救急車も行ったときに、すぐにその状況を伝えられて、こういうことをしなさいという、例えば、画像と動画で、もうきちんとできるんですね。どうかすれば、もう血圧とかなんとかも一瞬で送れる。そういうふうな医療の面、周辺部も物すごく助かると思います。

こういうふうな価格、さっき武内町の話をしました。武内町は、もう選ばざるを得ない、この価格になるんですかね。そういうふうな市民負担の軽減のためにも、ぜひやっていただきたいと思いますし、武雄市は新庁舎構想で、IT化。物すごく先進なIT化になってくると思います。内容はちょっと私、まだわかりませんが。それを最大限に、武雄市全体に生かすためには、やっぱりこれの整備と一緒にやったら、武雄市はもう、新庁舎はさらにすばらしいものになってくると思います。ぜひ要望お願いしたいと思います。

では、次のページに進みたいと思います。

次は、道路行政についてであります。

道路行政については、これは若木の工業団地ですね。若木の工業団地。これちょっと、グーグルアースで取ったんで、前のやつなんで。今ここに、タケックスさんが入られています。タケックスさんが入られ、今度ですね、行政頑張ってくださいました。西濃さんが来られます。西濃さんが来られて、若木は全部埋まるっちゃうことになるんですけども、やっぱり西濃さんが来られるには、ちょっと北川理事さんから聞いたんですかね。来られるにはやっぱり、この道路整備が物すごく最後の一押しになったと。やっぱり498の整備、女山トンネルができるから、そこがへそになるんで、西濃運輸さんもやっぱりこのところ、工業団地さんも得意先があるしっていうことで言われております。

そういう中で今言いました、498というのは、いまこういうふうに来てます。画像見てわかると思うんですが、画像、これはね、パワーポイントでやったら、テテテテテテって出せるんですけど、パワーポイントじゃないんですね。

今、こういうふうに来てます。ここに今、セブンイレブンがあるんですけども、セブンイレブンのちょっと先までしか、今のところ計画されてません。するとここまでだったら、こ

っちは現道を使うわけですね。女山峠、498 ができてきたときに、この現道を、交通量多くなると思います。交通量が多いけど、そこから先は現道を使うようになる。この道ですね。この道を使うようになります。こっからここまでの幅は約 35 センチ。こっち側は、ちょっと段がありますけども、そんな広くはありません。こういう中を、大型とかいろんなのが増えてくる。現道はそのままです。今言ったところは、ここのところですね。この部分。

ですから、498 が途中までできたときに、この現道の部分がそのままなので、どういうふうに、そういうふうな交通量の増大に対処するのか。そして、498 の今後の計画、どうなっているのか。この2点をわかる範囲でよろしいので、教えていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

まず、498 号の今後の計画ということでお話をさせていただきますけれども、答弁しますけれども。佐賀県の総合計画 2011 においてですね、広域基幹道路ネットワークの整備を重点目標に掲げられておりまして、その路線の1つとして、この 498 号線がなっておりまして、現在、今、若木バイパスのほうが、その整備が進められておるところですけれども、その国道 34 号線までの区間についてはですね、同バイパス、今のバイパスがある程度、進捗した段階で、整備方針について検討していくというふうなことになっております。

また、498 号線の期成会のほうでですね、年明けたらすぐにでもまた、陳情を、要望活動を行いたいというふうに考えております。若木バイパスの工事が済んだ後、その現道の交通安全の対策についてということですが、現道の交通量がバイパスのほうに移りますので、現道の交通量が減っていくのではないかとというふうに想定されておりまして……（「その先の」と呼ぶ者あり）

〔21 番「その先の部分」〕

ああ、そうですか。すみません。

そこの部分につきまして、今度、要望活動とあわせて、要望をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

バイパスが、ここまで来る。そして、こっからが、量が増える。今、1日1万5,000台～2万台が通るっていうので、ここは 498 が途中までできたら、先日言ったんですけど、もっと、何割か増えるということなんで、ここも増える。さらに、大型が増えるっていうことで。

ぜひ、部長さん、先ほど言われたように、今後の新こっちのバイパスと、現道。増える部分を強く陳情して、要望をお願いしたいと思います。

危なかです、やっぱり。ここだって、こっからですね、ずっと横断歩道もなかわけですね。さっき言った、そしてこっち側も片幅少ない。今のを拡大しました。現道がこうなります。こういうふうな感じになります。のどかでいいですね。

はい、では今言ったところの498。これは、工業団地の出口です。武雄方面側の出口です。これをですね、過去2回、私、一般質問で出させていただいています。さきの議会、松尾議員さんも出されました。西濃運輸さんが来られます。運輸さんですから、物すごくまた増えるわけですね。これはもう、出てくると。これがさっき言った498のところですね。これね、前2回使った質問の画像の使い回しです。すいません。こうやって来てます。ここ横断歩道ありませんね、横。ここをちょっと、弓の字になってるんで見にくいです。ここまで来て、やっと見えるっていうぐらいで、ここですね、ここ。

やっぱり工業団地で西濃さんも来られる。やっぱり、そういうことでここにですね、やっぱり信号機なり、まずは、例えば横断歩道なり、横断歩道をつくと、横断歩道をつかった手前に、ひし形マークをつくりますよね。そしたら注意にも奮起します。ぜひですね、このところを再度、お願いします。

先ほど、これは過去2回質問して、きょう3回目の質問なんですが、途中、松尾議員さんもおんなじ質問をされましたんで、全部で4回目の質問になると思いますので、質問っていうか要望になると思います。進捗状況をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

松尾政策部長

○松尾政策部長〔登壇〕

議員さん御指摘の若木工業団地の南側の入口になるかと思えますけれども、ここの地点への信号機の設置につきましては、地元からの要望を受けまして、武雄警察署のほうにも要望を提出し、その後も働きかけをしてきたところであります。武雄警察署におかれましては、公安委員会の管轄ということで、毎年、公安委員会のほうに上申をされておりますけれども、県内全体、予算面とかいろいろあるかと思えますけれども、今現在、実現に至ってないというところでございます。

市としましても、非常に重要な地点という考えでございますので、今後とも、強く要望してまいりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、要望活動ということで言われました。私も、何回か一緒に行って要望書を届けて、話も聞いて、そういうふうになっております。これからもですね、強く、ちょっとさっき言った西濃運輸さんも来られます。交通量も増えます。さっき言った、ここも増える。現道のと

ころです。強く、要望をお願いしていただきたいと思います。

続きまして、今度は女山です。女山トンネルができます。女山に関しましては、こっちが若木側、こっちが多久側。ごめんなさい、こっちが武雄側、こっち側が多久側になります。武雄側からずっと登って行って、こう、結構急な坂ですね。大型トレーラーとか来たら、もう20キロとか10キロとかでしか登れないような感じでいきます。ここが、Sがこうずっと続いているところです。この辺、ごめんなさい、かかれなくて。この辺からトンネルができ、ほがされてきて、ここあたりに出ます。大体1,200メートル。

これは、多久側から撮った写真です。この先の曲がった先から、ボンとトンネルがほがされてる。何でこの画像を写したか。道路整備ができてるんですね、多久側。これは、こっからここまで、4メートル50。こっち、これ、さっき言った部分ですね。反対、こう撮って後ろ側で撮ったものです。今度、反対側。ここ。ここも1.8メートルほど、とってある道が続いております。

今、ここまでできて、あとずっとですね、買収されてこの先のトンネルがほげるってところまで、こういうふうな感じで、多久側はトンネルの完成に向けて進められている。

じゃあ、武雄側はどうか。武雄、若木側はどうかっていうと、さっき言った、こら辺から、ここにトンネルが、穴が開きます。こういくわけですね。ずっといきます。こら辺はですね、こっからここまでは、あんまり整備されておられません。ここくらいからちょっと広がって、整備されております。わりと広く、こう見えてきます。ところが、これはさっき言った、多久側よりもだいぶ狭い反対側。こっち側も多久より、だいぶ狭いです。ここでもう終わってるんですね。ずっと何年も、このままでいっております。ここから先、多くなるっていうところ、ここは橋があります。ここも狭いですよ、物すごい。大型もどんどん来ます。これはさっき言った、橋のところですね。さっき終わってるんで。こっから、メガソーラーに向かうところ、本部ダムのところですね。もうこういうふうな感じで狭くなっております。

質問はもうここまで言えばわかると思うんですけども、多久側はそうやってトンネルのそばまで、あの大きい歩道等整備されてきている。武雄側、若木側は途中で終わってる。その後の部分が、どうなっているのか。ここの部分ですね。こっから、こう来てる部分。ここ、工業団地の出口です。

これは、昔、交差点、樋渡石油さんっていうあったとこの交差点から、多久側を向いた、これ八幡岳ですね。これも、ここまでで終わってるんですね。こっから手前からここまで100メートルもないですけども、ここで終わってるんですね。その先はずっと、昔のもう、こういうふうな感じの、昔のまんま。ごめんなさい、1枚飛ばしました。

ですから、女山トンネル、これから車両もどンドン増えます。工事に向ける車道が増えるんで、それまでに、どういうふうな安全対策を考えられているかっていうのと、もう1つは、

今とまっている、ここからここまでの未整備地区。車はこれから後、増えるのが予想されるけど、未整備地区。ここは子どもたちの通学路でもあります。先ほど、西谷峠のこと言われました。最重要地点と。ぜひ、どうなっているのか、お聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

女山トンネルの工事につきましては、特に、土砂の運搬、武雄側からも掘削するというふうなことで、残土処分の車両が頻繁に通過するというふうなこと。それから完成すれば、議員おっしゃるとおり、線形がよくなってですね、通過車両も多くなるということで、事前にですね、いろいろな安全対策については今後検討をしてですね、協議をしていくというふうなことで、県と話をしているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

トンネルはほげて、交通量が多くなるけど、このところがそのままっていうのは、やっぱりおかしいと思いますので、ぜひ、強力に進めていっていただきたいと思いますし、もう1つは、工事中も増えます。関係地区、例えば、中山地区、御所地区、附防地区、上宿区、血宿。そんなところと、地元と一緒に協議してですね、どういうふうな安全対策ができるのか、地元と協議してどういうふうな安全対策ができるのかっていうのを、進めていっていきたいと思います。うんって言うていらっしゃるんで、ぜひよろしくお願いします。

次、まちづくりのほうに入りたいと思います。まちづくりは人づくり。いろんなことでやってきました。今までの質問も、例えば、高速情報インフラネット整備も、まちづくりに大きく関係しました。道路整備もまちづくりに大きく関係します。あとですね、若木町に西濃運輸さんが来ていただきました。三京ステンレスさんも、今年の夏に来ていただきました。いろんなところがこうやって来て、特に北川理事さんがやったださる、いろんな誘致企業とかっていうのが、物すごくですね、まちづくりにプラスになるんです。

やっぱりですね、人口減の大きな特効薬の1つは雇用ですよね。雇用。そういうのを役所さん、一生懸命に頑張って、引っ張ってきていただいています。誘致っていうのは、何も企業だけではありません。いろんな大会、観光客。それを引っ張ってくるのも、大きな誘致であります。

きのう、もう大きく新聞に載りましたけども、若木ゴルフ倶楽部。やっぱりきれいですね。グーグルアースで見ると、これグーグルアースなんですけども、こんなきれいに写ります。グーグルアース。この若木ゴルフ倶楽部さんに、もう佐賀県初、女子ツアーが来られると。Tポイント女子ツアーですかね、っていうことで来られます。

きのう、質問の中でですね、例えばそのCCCさんを、何やったっけ、ビデオ屋さんとか何とか言う。やっぱり、そういうのはですね、私その後、教育も質問しますのであれですけども。やっぱり例えば、建設会社さんに土建屋さんとか。例えば我々、酒屋さんに飲み屋とかですねというのと同じような、正式な場ではやっぱりCCCさん。やっぱりそういうふうに言わなきゃいけないと思います。この後、教育で聞くんですね。

ちょっとすいません、話それました。やっぱりこういう大会誘致っていうのはですね、物すごく地元で寄与するんですね。宿泊そして観光。例えば若木町だったら、大楠公園に、いかにこうやって来ていただくものか。宿泊も。登り窯にいかに来ていただくのか。宿泊もいっぱい来ます。

まず、このまちづくりの部分の1つ目の質問ですけども、この大会誘致に至った経緯、そしてその効果。そしてそれをどう利用するのか。例えばさっき言ったように、お客さんにパンフレットやって、大楠公園とか飛龍窯のほうに引っ張りますよとか、図書館のほうに引っ張りますよとか、それをまずお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これが、一番最初にこれ佐賀新聞でね、これ佐賀新聞社さんは、これは後援かな。後援なんで、いち早く載せられたと思うんですけども、きのう正式に発表されました。Tポイントレディースということで、発表されました。これは物すごくやっぱり反響がありましてね。

ただね、きのうの谷口攝久議員の質問に、CCCの関係者が、もう本当に悲しくなった。自分たちは一生懸命ね、図書館もして市民の皆さんたちに喜んでいただこうと思って、一生懸命しているんだけど、ああいうふうにごう議会の場でさげすむようなね、発言をされたっていうのに、本当にこう悲しく思いましたって。武雄市っていうと、ああそういうところですねって言われて、恐らくですね、谷口議員さんも自分がここで政治屋って呼ばれたら、どういう思いなのかっていうことはね、もう少しやっぱり考えなきゃいけないと思いますよね。まあ言っても無駄だとは思いますがけれども。

それで、これがやっぱり一番つらいんですよ。私たちは一生懸命一生懸命ね、こう来てくださってということで、もう1年以上前から、我々としてはCCCさんを含めてね、例えば若木もそうなんですけど、何らかスポーツのね、これは議会でも上田議員さんを中心によくおっしゃいますけれども、スポーツの大会できないかということ、ずっと働きかけていたんですね。その中でCCC、カルチュア・コンビニエンス・クラブさんが、ゴルフをね、武雄市図書館で大変お世話になっているんでね。お世話になってる、と言われるんですよ。

〔21番「こっちがお世話になっている」〕

どっちがお世話になってるんでしょうね、本当。まあでも谷口攝久さんみたいな人もいます

からね。なんですけれども、それでなんて言うんですかね。我々とすれば、CCCさんも含めてそうなんですけども、いろんなアプローチを実はしてたんですね。

ここで大きいのは、やっぱりね牟田議員さんを初めとする、その与党会派の皆さんたちなんですよ。もう一生懸命やっぱりCCCに対してもね、いろんな御協力とか御支援とかされているんですね。ですので、そういった議会のやっぱり力っていうのが、ここで僕は発揮できたと、実は思っているんです。その結果、CCCさんが、このように決定をされたということと、私は聞き及んでおります。

そして、その今後及ぼすその経済効果なんですけれども、これ実はテレビ朝日、私が、ちょっとこれ誤解があったら訂正しますけれども、地上波のテレビ朝日さんが、これ放映するということになっていますので、この効果って、まあ大きいんですよ。それで、なおかつ、ブランドです。町のブランドが、やっぱり今、女子プロが今スケートと並んで、最大のブランドらしいんですよ。やっぱり広告効果に換算すると。それが、お越しいただくということで、物すごくこれブランド価値が飛躍的にまた向上するというふうに理解をしています。

そして、実際の数字なんですけども、去年のTポイントレディース。これ鹿児島県で行われたんですけど、述べ1万人の方々が、お越しになったと。3日間で。なっていますので、恐らく武雄はそれ以上の皆さんたちがお越しいただくことになろうかと思っておりますので、これは武雄温泉であるとか、武雄市図書館であるとか、若木の大楠もそうなんですけども、さまざまに連動させようと思っておりますので、そのときに大切なのが私は、お・も・て・な・しだと思っておりますので、そこはぜひ、若木町の皆さんたちもちょっと、うって一丸となつてね、おもてなしの体勢を整えていただく。

行政としては最大限、さきの答弁でも申し上げましたけども、最大限応援をしようと思っておりますので、それでこれを1年で終わるのではなくてね、もう来年も再来年も、できればずっとやっていただくように、我々としても精一杯応援してまいりたいと思っております。やっぱりね、本当にこれはありがたいんですね。TポイントのTはね、TSUTAYAのTじゃなくて、武雄のTだって言い続けた甲斐がありました。

○議長（杉原豊喜君）

21 番牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

新聞で出てからですね、もう電話とメッセージが来るんですね。若木って、あんた若木やったのって。券どがんすつぎ手に入ると、とかですね。どがんかしてくれん、とか。例えばそこに座っておられる事務局長さんも、私も行きたいと。もう何人からも、やっぱり、それだけやっぱり反響すごいんですね。やっぱりすごいと思います。1万人で、本当に武雄市のキャパが、宿泊のキャパが足りないような感じで来られると思いますので、ぜひもう本当に期待するところでありますし、職員さんほか結構、議長がゴルフ好きなんですね。(笑い声)

はい。なんとか頑張ってみます。

すみません。ちょっと余談になりましたけども、こういうのもですね、大きなまちづくりの1つなんですね。いろんな大会が、おらが村にきた、おらが町にきた。そして、これ佐賀県初なんですね。佐賀県初のものが、自分のところに来る、同じ日に来る、テレビにも映る。これは、それは大きなまちづくりの1つだと思いますので、これからですね、CCCさんも、そうやってお世話になっている。いろんな形で、大会誘致。スポーツにしろ、いろんな企業誘致にしても、まちづくりやっていただきたいと思います。

では、まちづくりの次に入りたいと思います。これはですね、6月議会で質問しました、体の不自由な方用の駐車場。

これですね、ちょっとすみません。余談になりますけども、市、市役所、視察がいっぱい来られますよね。視察がいっぱい来られる中で、たまに、知り合いが来て、一緒に来たり、あいさつして最後までいるときもあります。視察に来られた方がですね、私がしゃべった人、後で連絡来たりして。皆さん言うのは、もちろん図書館とかフェイスブックのこと言われますけど、市長のことももちろん言われますけども。職員さんがすごいということ、ほぼ100%言われます。ちょっと余談ですけども、今言いました。

これ6月議会で質問して、なんで今の話したかということ、6月議会でこれを質問して帰りに私、スーパーに寄ったんですね。買い物しようと。スーパーに寄ったら、すでにもう職員さん私より先に来て、チェックしてるんですよ。6月議会の終わった、私が質問したことを。ですから、すぐ動かれていたんですね。

これ、やっぱりですね、今も見てても健常者の人たちがとめられていることが多いです。市内の各――、そして離れたところに妊婦さんが降りられて歩いて。空いていたらここ、とめられるよなと思うんですけども、やっぱりこういうふうなことでとめられてる。これは、障害者駐車場利用証。これをかけている方は別にいいんですけども、かけてない方。じゃない方の、健常者の人がとめられるのが、本当に目に付きます。これもそうですね。6月議会で質問して、すぐ見に来ていただいて、十分考えますということでは言われてました。

例えば、こういうので武雄市は、こういうところにとめるのはもうだめですよとか、こういうふうな警告がありますよとかいう、啓蒙条例でもいいからお願いしますということで、言っておりました。これも繰り返しになりますけども、外国ではこういうところにとめたらレッカー車だそうです。

ぜひ、このですね、駐車場。うちの父も足、もう高齢ですので、足がそんなに強いほうじゃないんで、やっぱり遠くにとめたら、やっぱりきついですよね。高齢者の方。特に坂とかあったりして。やっぱり、父はまだあれですけども、こういうふうな不自由な方はやっぱり近くにとめていただきたいというのがあるので、ぜひですね、役所としてもこういうふうな運動を進めていっていただきたいと思いますし、先ほど言いました、6月すぐ来ていただ

いたことに本当心からお礼を申し上げますとともに、今後どういうふうを考えていらっしゃるのかをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

実は、牟田議員さんが質問される発端となったのが、この庁舎での事件といいましょうか。そういうことが事実ございまして、当日、その案件があった即日にですね、職員には周知徹底ということで、喚起をしたところでございます。その後、公報等掲載をして周知に努めてきているところであります。市民に対してもですね。

現在のところ、パーキングパーミットの協力の施設数。これが市内にはですね、すでに114施設ございます。それから利用者の交付件数。これが今年の12月2日現在で、2,092件ございます。そういうことで、かなりの多数の方が、かなりの多数の施設でですね、利用されるという状況でございますので、今後ともですね、職員はもとより、PRに努めていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

一生懸命動いていただいているのは感謝します。

ただちょっと1つ言えば、質問で納得いかないのが、施設、パーキングパーミットの施設数は百いくつ。交付が二千いくらということ言われます。私が聞いているのは、健常者の方がとめられるのを、どうやってとめるかっていうのを聞いているんですよ。数を聞いているわけじゃないですね。それをなんとか、例えば啓蒙条例なりいろんなので、例えば、それをどうするかというところの質問であります。再度答弁お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

数を紹介させていただきましたのはですね、市内でも利用する頻度といいましょうか、利用される頻度は相当高いということ、皆さんに紹介した上でですね、そういう状況でございますので、なおのこと、やはり健常者がとめないようにですね、これからも啓蒙活動を、アピールをですね、徹底的にやっていくという姿勢を申させていただきました。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

本当はこの後ですね、どげん啓蒙活動するとですかって聞くとところなんですけども。そう

やって、物すごく動いてもらってますので、ぜひですね、これは前のときに言いましたけども、あるところは車が来たらセンサーで、ここは体の障害者、不自由な方の駐車場です。健常者はとめないてくださいと、放送で言うところもあるんですね。看板で健常者は——そういうふうな具体的な啓蒙の部分です、例えばお金かからないような方向です、やっていただきたいと思います。

では、次に入りたいと思います。これはさっきのやつですね。

まちづくりの部分で、街路灯。各町に防犯協会というのがあって、年何個か、いろんなところで、市からのまちづくり交付金でつくってもらってます。その中でもですね、ただやっぱり、さっき言った200平方キロあるし、周辺部は家も少ないんで、暗いというのがあります。

これは、こういうふうな街路灯、夜です。これも田舎のほうの街路灯です。これちょっと街路、見えますか。ここに1個あって、その後はありません。ここに先置きのやつが。この反対側を写真を撮ったら、何も見えない。これは一応フラッシュをたいているんですけども、何も見えない。

街路灯ですね、LEDが出てきて、LED単体のほうは、電気料はかからないけど少し高くなる。購入の部分に対しては、高くなるっていうのがあります。ぜひですね、こういう街路灯事業、今武雄市内には豊田合成さん。いろんなところでLED業者がいらっしゃいますので、ぜひですね街路灯。例えば、A町で1年間で5件~10件つけられるんなら、もう順番は決められているんですね。順番は決められると思うので、いろんなところが急に必要になってくると思いますので、ぜひこういうふうな街路灯事業に力を入れていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げたいと思うんですけども、ちょっとね、今まで私たちは、ちょっとこれ間違っていたんじゃないかって思い始めましてね。街路灯も、さっきのブイでも出てましたけれど、なんかすごい高いところにあるじゃないですか。そうすると、費用も高くなるし、もうメンテもすごい大変なんです。そうすると、コストの問題でなかなかつけられないっていうのがあったんですけど。よくよく僕は夜ランニングをするんですけど、どこだったかな。仙台かどっかでランニングをしていたときに、仕事終わって。街路灯の位置が、実はこの辺だったんですよ。

この辺で、それがなんか結構暗いところでもあって。その後ね、ちょっと仙台市役所の方にちょっと聞いてみたらね、いやそっちのほうコストもかからずに、しかもメンテも、なんていうんですかね、楽に済むと。ただし、割られるであるとか、そういういたずらのね、危険性は出てくるんで、そこはちょっと、いろんな、全部いいことばかりじゃありませんと。

ただし、その高いもう3メートルぐらいの高いものよりは、ずっとつけやすいという話があったんですね。

しかも、今LEDだと、球そのものの寿命も延びているじゃないですか。ですので、今フットライト、足下ですよ。足下に置くものと、もちろんこの高いやつを否定するわけではないですよ。一番効果が高いってのは、それは事実なんで。その中間のものを少しちょっと考える必要があるだろうというふうに思っているんです。そうすると、今まで1つしかつけられなかったのが、2つ3つつけられると、それはそれで効果が出てくると思いますので、そこも含めて、考えていきたいなというふうに思っています。

いずれにしても、これについては、予算の問題もありますし、これ黒岩幸生議員からも再三に渡って御質問をいただきましたけれども、やっぱりつけたいけれどもなかなかつけられない場所があるということもありますので、そんな簡単にすぐできるような話じゃないんとは思うんですけども、一たん我々の見方をね、もう1回ちょっと検証する必要があるだろうと思っています。

そして、今ちょっと思い出したんですけども、ちょうど私が総務省時代に、出張したときに、イタリアに総務省のお金で出張させていただいたときね。ローマから、ちょうどまちづくりの現場ということで、ローマから40キロくらいかな。離れた街を見に行ったときに、ちょっとあれ日本と違うなと思ったのは、電信柱があんまりないということと、もう1つは街路灯が非常に低かったというのがすごくやっぱり印象に残っていますので、そういったことも含めてね考えながら、ちょっと一たんちょっと、はい。もっと効率的に進められるようにね、効果的に進められるように考えてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

なるほど低い位置ですね。ホテルに入ると、フットライトとかこの位置にありますよ。上方はあんまり付かないですね。やっぱり、そういうふうないろんな考え方が——。高いところっていうのは、例えば区長さんが、防犯協会の人、はしごを持ってきてやったりは、いい考えだと思いますので、ぜひやっていきたいだし、検証していただきたいと思います。ありがとうございます。

では先、続きまして、次に、教育の部分に入って、教育は2点です。

先ほど言いました、一番最初に言いました、イントラネットの部分が教育のほうにだいぶ入りますので、今回はこのスクールバスの件ですね。今みんなのバスというのをやっていただいております。物すごく町民の皆さん——。きょう、山口議員さんですかね、みんなのバス……（「上野議員さん」と呼ぶ者あり）上野議員さん。すみません、質問されました。ちょっとスクールバスに関してちょっといかなものかなということでお伺いしたいと思います。

スクールバスというのは、もちろん説明はいらなないと思いますけども。スクールバスは今まで買うのは、例えば行政が買うには、僻地補助しかなかったんですね。僻地指定を受けているところはバスの購入費が出ます。さらに運営費は交付税措置されて、1台につき年間550万の交付税措置がされます。最低ですね。そういうふうな、1台550万の年間運用の交付税——基準財政需要額に加算されますんで。

さっき言いましたスクールバスは、さっき言いましたように550万の交付税措置があります。基準財政需要額の、あります。そん中で、スクールバスを目的外。朝、夕はスクールバス、昼間は例えば福祉バス。そういうふうな目的外は交付税に算定しないっていうのが、今までの通説だったんですね、だめだと。ところが2012年、昨年から総務省さんの見解が変わりました、新たに。相談に応じて起用してきた運用のあいまいさがあったと。しかし、今年の5月、各都道府県に有償で混乗しても基礎算定、550万円の交付税措置はしますよということで変わりました。ということでルールを明確化されました。どういうことかと。

朝、例えば8時半までスクールバスで回します。もちろんお金は取っちゃいけません。じゃあ9時から3時まで回して、さっき言ったみんなのバスみたいに、100円、200円でやることができます。4時からまたスクールバスに戻ってもいい。そういうことです。

ですから、例えば今みんなのバスっていうのがありますけども、それもこっち側に使えるんじゃないかと。購入費ができれば。今まではもう絶対だめだったんですね。目的外使用は交付税の算定措置外ということだったんですけども、今度からよくなったと。例えば8時半までは子どもたちのスクールバスで回していく。9～3時までにはそういうように福祉バスで使うと。福祉バス。そういうふうなことが、できるようになりました。

ぜひ、こういうのを取り入れて周辺部とか、そういうのに役立ってほしいし、例えば今、みんなのバスというのは、この前まで緊急雇用事業、今は委託事業というので使われています。これだけ基礎算定措置が入れば、いろんなやり方ができると思いますので、このスクールバスを、この制度の変わったことを利用して何かできないかということで質問してみました。答弁お願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ交付税参入の話はちょっと別にしてですね、これちょっと地元でよく話し合ってください。

〔21番「はい」〕

はい。それで、スクールバスというふうになると、朝早くみんなのバスを使いたいという方々もいらっしゃるんですね。例えば、病院に間に合うようにと。必ずそこで利害関係が出てきますので、そこはよく地元で1回ちょっと話し合っていていただいて、区長さんを中心に話し

合って——区長会ですよ。若木町の区長会を中心に話し合っていて、我々とすれば、なるべくみんなのバスというのは、文字どおりみんなのバスですので、そういうふうに活用していただく方向性がね、地元に出れば、それはきちんと応援したいとこのように思っております。まず地元でよく話し合っただけであればありがたいと思います。

それともう1つ。これは、あれですかね。若木の川内とか、あっちのほうを想定されているんですかね。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

想定しているのは、例えば今言った若木町周辺部のところもあります。例えば中山地区は子どもが1人、2人しかいないのでこういうので、親がいつも送っているんですね。川内地区もあります。菅牟田地区もあります。そういうのも想定されますし、例えば若木町以外でもですよ、そういうみんなのバスを使われているところで、こういうふうな事例があれば、こういうのが取り入れられるのではないかとということで質問しました。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いやこれね、距離の問題だと思うんですよ。みんながこうスクールバスを乗られても、ちょっとこれはさすがに違うでしょっていうことになりますので、距離と、あと高低の問題ですよ。

だから若木の場合は、結構中山間地域で、例えば菅牟田とかっていうのは、1回降りてまた登るっていうところがあって、そういうところは対象になると思うんですけども。

それともう1つ、みんなのバスの問題点は、最大で9人だけ。乗れるのは、9人しかいないんで、それをぐるぐる回すっていうのはちょっと基本的にあり得ないんで、このスクールバスというのは超例外的に、例えば距離がこれくらいだということと、もう1つは高低差がこれくらいっていうのをちゃんと納税者の皆さんたちに説明できるようにしないと、これ税金で運営をされていますので、いくら国税措置があったとしても、単費でも相当出していますので、その基準というは絶対大事だと思っています。

その中で、我々としては超例外的に活用できればいいなというふうに思っていますので、これをなんかね、いろんなところに広げようという考えはあまり持っていません。

○議長（杉原豊喜君）

21 番 牟田議員

○21 番（牟田勝浩君）〔登壇〕

見解が変わったことですね、今後ひよっとするといろんな動きがあるかもしれない、そう

いう意味で紹介させていただきました。今までは、例外が認められないのを認められるようになった。ぜひですね、こういう中からもいろんなヒントがあって、例えば今後使えるかもしれないので、ぜひ、頭の隅にとめておいていただきたいと思います。

では最後。最後の教育です。

これはそろばん。今タブレットで授業されてます。そろばん人口というのがですね、物すごく多かったんですけども、もちろん昔は計算機がなかったんで、物すごく多かった。でも、バブル過ぎた頃からですかね。急激に減って、どんどんどんどん減って、とにかく減り続けたと。減り続けて、2007年くらいから今度は右肩上がりに増えてきているということでありま。珠算人口がですね。日本は、昔は九九が物すごく有名でした。今インドの99。先日武雄で珠算大会があって、教育長さんも出たということですね。

珠算の授業っていうのはタブレットもちょっと正反対になりますけれども、インドの99、九九じゃなくて、99なんですけども。99よりも、例えば3桁でも4桁でも暗算できるエアそろばんみたいな感じで。やっぱりこういうのが見直されてきているんじゃないかと。

やっぱり、僕はそろばんが苦手です。苦手だったんです。3年生、4年生くらいで、3時間か4時間授業があるんですけどもだめだったです。でも、そういうふうなですね、今増えてきているっていうのと、やっぱりそういうふうな、何でも私もそう、計算機にすぐ頼っちゃうんです、暗算とかやらなくて。やっぱこういうところも、ちょっと見直していいんじゃないかと。

先日ちょっと連絡したらそういう授業の中で、珠算協会の方が補助としてそういうのを教えていいですよっていうのを聞きました。はい。ですから、タブレットと正反対のことになるかもしれませんが、こういうのも大切じゃないか。教育長さんいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先日、県のそろばんの大会が武雄のほうでありました。実際に見せていただきましてですね、本当にびっくりするほどの状況でございました。もちろん、そろばんが上手だということとすごいなと思ったんですが、もう1つはやっぱりその集中力ですね。これだけの集中力ができればいいなということを思ったところです。

お話にありましたように、大体そろばんの学習というのは、ずっと算数の教科からではなくってはおりません。3年生、4年生で、ただし足し算と引き算のみですね。ですから、ほかの学習ではわかりにくい位取りのですね、大事な部分というのが、実際に珠を扱いながら身につくという意味では、算数の力としてですね、欠かせないものだということですからずっと入ってきてるわけでありまして、時間数としては短いわけでありましてけれども、ゲストティーチャー、あるいはアドバイザーとしてですね、入っていただくことはもう十分可能でありま

すし、全国的にもそういうことが行われていますので、今後、それぞれの学校にもまた紹介もしていきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番 牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

あらかた、きょうの御質問は終わりました。

ぜひですね、これからも先ほど言いました、市民負担の軽減。そして情報インフラネット。道路事業。市民の福祉向上のために頑張っていただきたいことを願ひまして、質問を終わりたいと思います。どうぞ、よろしく申し上げます。ありがとうございました。